

令和3年度

# 授業改善プラン

大田区立矢口東小学校

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学校教育法
- 小学校学習指導要領
- 小学校設置基準
- 東京都教育目標
- 大田区教育目標 等

大田区立矢口東小学校教育目標

人間尊重の精神を基調として、心身ともに健康で、意欲を持って主体的、創造的に取り組む児童の育成を目指し、次の目標の達成に努める。

○自ら学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子

- 大田区立矢口東小学校
- 学校、地域の実態
  - 地域の期待や願い
  - 保護者の期待や願い
  - 期待される児童像

- 各教科の指導の重点
- 国語**  
言葉の学習を中心に言語感覚を養い、適切に表現する力と思考力を育てる。
  - 社会**  
社会事象に関心をもち、資料活用力を向上させ、知識理解の確実な定着を図る。
  - 算数**  
基礎的な計算能力を確実に身に付ける。習熟度別少人数学習を通して数学的な見方・考え方を育てる。
  - 理科**  
科学的な見方や考え方を養うために予想や仮説を立て学習する。
  - 生活**  
身近な人々、社会、自然に関心をもち、見たもの、気付いたものを絵や文章で表したり、言葉で伝えたりする。
  - 音楽**  
音楽に対する興味・関心を高め、音楽を愛好する心を育てる。
  - 図画工作**  
個性を生かした創造的な造形活動ができる基礎力の育成を図る。
  - 家庭**  
生活を工夫しようとする実践的な態度の育成を図る。
  - 体育**  
様々な運動をバランスよく取り組み、健康の維持・増進を目指す。

学校経営の基本方針

「信頼される学校」「地域とともに歩む学校」を目指し、地域・保護者との連携を深めるとともに、日々の教育活動を通して「確かな学力の向上」「豊かな心の育成」「健康・体力の向上」に取り組むことで自立への基礎を養う。

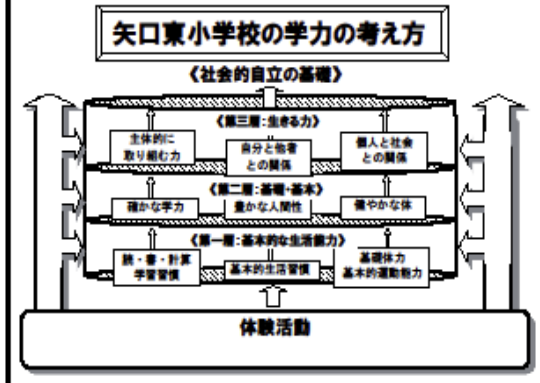
- 外国語活動の重点
- ・コミュニケーション能力の伸長

本校における学力向上のための基本方針

- 少人数指導の工夫や補習教室を効果的に行うことにより、個に応じたきめ細かい指導を行う。
- タブレット端末や学習コンテンツ等を利用して授業で活用するとともに、家庭学習にも使用することで、家庭と連携した学習習慣づくりを進める。
- 社会に求められる資質・能力の育成を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。
- 児童の実態に即した学習指導計画を立て、ねらいと評価を明確にした授業展開を図る。
- 授業公開を積極的に行い、指導法の工夫・改善に努め、授業力の向上を図る。

- 総合的な学習の時間の指導の重点
- ・自ら学習課題を見付け解決する態度
  - ・探求型の学習活動の推進

- 道徳教育指導の重点
- ・基本的生活習慣
  - ・豊かな心の育成
  - ・生きる力の育成
  - ・道徳的実践力の定着



- 特別活動の指導の重点
- ・代表委員会、委員会活動の充実
  - ・教科・領域等の関連
  - ・児童による学校行事の企画立案
  - ・異年齢集団での交流

- 【知育】学習規範や基礎的・基本的な知識・技能の定着により、きめ細やかな指導を行う。楽しく分かる授業の実践を進めながら『自ら学ぶ子』を育てる。
- 【徳育】学級経営・専科経営・保健室経営の基本である子ども一人一人の理解に努める。また学校の教育活動全体を通して、心の教育や人権教育の充実を図り、『心豊かな子』の育成を進める。
- 【体育】健康安全指導や保健指導の徹底を図る。体力・健康意識の向上を地域、保護者と連携し広めていく。健康づくりや体力づくりを効果的に取り入れ、授業改善を図るとともに、『たくましい子』の育成に努める。
- 【体験活動】体験活動は、学びの基であると捉え、感動する機会を多く設定するとともに、各教科などで学んだものの実践・活用を図る。また、基本的な生活習慣や集団的行動で身に付けるべき基礎・基本を体得させる。

- 生活指導の重点
- ・「矢東小のやくそく」の徹底
  - ・全教職員の児童理解共通実践の徹底
  - ・避難訓練、防犯訓練等の実施

- 進路指導の重点
- ・体験学習を通じた人間としての生き方
  - ・保護者等との連携
  - ・将来にわたって夢や希望を抱く指導

矢口東小学校の授業改善に向けた視点

個に応じた指導体制	学習習慣の確立	基礎・基本の確実な定着	授業の質の向上	授業時数の確保	評価活動の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>○複数指導体制の整備</li> <li>○算数科での全学年習熟度別少人数指導</li> <li>○専科教員による指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○矢東学習スタンダードと「家庭学習のすすめ」の徹底</li> <li>○早寝・早起き・朝ごはん月間と子どもの心サポート月間の取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京ベータシットドリルとステップ学習による繰り返し学習と反復練習</li> <li>○補習教室（放課後10回 土曜6回）</li> <li>○授業補助108時間</li> <li>○学習カウンセリング実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外部人材の活用による問題解決学習と体験学習の充実</li> <li>○校内研究 授業観察時に授業を公開し、教員相互が指導法の工夫・改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○抜弁を設けない土曜授業の実施（年10回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善推進プランの検証</li> <li>○全児童、全家庭を対象とした評価の実施と活用</li> </ul>

【令和3年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

国語科における令和2年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・国語に対する関心が高まるように、学習方法や掲示物などの工夫をしてきた。その結果、物語や詩・俳句に関心をもつ児童は増えてきた。しかし、「主体的に取り組む態度」のポイントは学年により違いが出てきている。発達段階に合わせて、主体的に取り組めるような指導の工夫が必要である。
- ・文章の内容や要点に注意しながら、自分の考えを明確にして読むこと指導した結果、文学的な文章だけでなく、説明的な文章の内容も少しずつ読み取れるようになってきているので、さらに確かな力を付けさせていきたい。
- ・叙述に気をつけながら読む練習を重ねることで、物語や説明文の内容を読み取る力が身に付いてきている。一方で、メモを活用し、文章構成を考えながら「書く」ことについては、今度も指導を重ねていくことが大切である。

国語における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	・4年生と6年生は目標値を上回ったが、5年生は目標値を下回った。言語の特徴や使い方に関わる力を付けることが課題である。語句と語句の関係、話や文章の構成を意識させ、作文等で使わせていく。	・6年生は目標値を上回ったが、4年生と5年生は目標値を下回った。文章を書いて表す力を付けることが今後の課題である。段落構成を考えたり、自分の意見とその理由を区別したりしながら書く活動を行わせていく。	・6年生は目標値を上回ったが、4年生と5年生は大きく下回った。自らの理解の状況を振り返ることができるよう、発問の工夫をする。また、自らの考えを記述したり話し合う場面を工夫し、児童の主体性を高めることにつなげていく。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 国語に対して主体的に取り組もうとする意欲を高め、言葉に対する感覚や語彙を豊かにしていく。  
→日常的に様々な言語活動を取り上げ、言葉に親しむ機会を増やす。
- 2 相手や目的、意図に応じて、文章構成を考えたり表現を工夫したりしながら書く力を付けさせる。  
→メモを活用し、文章全体の構成を考えたり、適切な語を選んで表現したりして工夫して書く。
- 3 文章の内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしなが読む力を付けさせる。  
→文章の構成や要点に注意しながら読んだり、文章を読んで考えたことを発表し合ったりさせる。

国語科の授業改善策

- 1 国語に対して主体的に取り組もうとする意欲を高め、児童同士が学び合いながら言葉に対する感覚や語彙を豊かにするために  
低・中：話し合いの形を示すことで話し合いのルールを身に付けさせ、慣れさせていく。苦手な児童も自信をもって話し合いに参加することができるようにさせる。また、図書の時間を活用する。本の読み聞かせ等の時間を確保し、読書の楽しさが味わえるようにする。関心をもった言葉の意味や使い方を、国語辞典や漢字辞典で調べさせる。  
高：グループやペアでの話し合い活動やメモの活用、話し合い方の視点等、学習の進め方を工夫することにより、児童が自分の考えを明確に伝えるよう表現を工夫し、意欲的に学習に参加することができるようにしていく。また、矢東タイムなどを活用して読書の時間を確保し、日常的に本に親しませていく。
- 2 相手や目的、意図に応じて、文章構成を考えたり表現の工夫をしたりしながら書く力を高めるために  
低：行事や生活科とも関連させ、自分の思いを伝える楽しさを感じさせながら取り組ませる。  
経験したことや想像したことの順序を整理させ、「はじめ・なか・おわり」の構成を考えて書く。  
中：書こうとする中心が明確になるよう文章構成を考え、自分の考えやその理由・根拠をあげて書かせる。理由の場合は「なぜかという～」 「その理由は～」等、表現の仕方を指導する。  
高：話のメモを取るなど様々な場面で書く活動を取り入れる。また段落構成を考えながら書くことにも慣れさせる。学んだ効果的な表現方法を作文の中で進んで使わせていく。
- 3 文章の内容や要旨を捉え、自分の考えを明確にしなが読む力をつけさせるために  
低：説明的な文章の本も、楽しんで読もうとする態度を育てる。書かれている事柄の順序や場面の様子に気を付けながら読ませる。  
中：いろいろな種類の本に関心をもたせる。段落相互の関係を考えたり、内容の中心を捉えたりしながら読ませ、自分の考えや感想などをまとめて児童同士で交流させる。  
高：目的に応じて、本を選んで読ませる。文章の内容を的確に押さえて要旨を捉えたり、事実・感想・意見を区別したりして読み、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

## 【令和3年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 社会科における前年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・知識・技能において4・5年生の目標値が上回っていることから、一定の成果が出ていると考えられるが、学習用語の確認を繰り返し行うことや、自分で学習のまとめをする時間を確保するなどして、学習したことを振り返る機会をもつようにすることが必要である。
- ・思考・判断・表現において6年生の結果に成果が見られた。ただ全体的に資料の読み取り方に課題があることから、資料を読み取る際に、問いに対する具体的な読み取り方を技術として身に付けることができていないことが課題である。
- ・どの学年も、社会科見学や実生活体験などから、直接見聞きしたことと結びつけて主体的に学習に取り組む態度を高めていくことが課題である。

#### 社会科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別 結果分析	・4・5年生は目標値を上回り、6年生は少し下回った。特に6年生では国土についての項目が、昨年より大幅に正答率が下がっていた。国土とその特徴についての理解を深める教材を活用する必要がある。	・6年生は目標値を上回り、4・5年生は目標値を下回った。どの学年も資料を読み取り答える課題がある。資料の読み取り方について重点的に授業で扱うなど、資料の読み取りを技術的に底上げすると取り組みが必要である。	・4・5・6年生共に目標値を下回った。社会科見学などで見聞きしたことを生活体験と結びつけることにより、主体的に学んだことを生かしたり興味を幅を広げて学習したりする態度を身につけさせていくことが課題である。

#### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

##### 1 問題解決的な学習の定着

→「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」の学習過程に見通しがもてるように問題解決的な学習の定着を図り、児童が社会的事象をすすんで調べ追究しようとする態度を育てていく。

##### 2 分かったことや考えたことを短い文章で表現させる

→社会的な思考・判断・表現する力を伸ばしたり、知識・技能を定着させたりするために、事実や意見を自分の言葉で表現させる時間を設定していく。

##### 3 資料を読み取る技能を定着させる

→グラフなどの数値の変化や、資料の読み取り方・活用の仕方について、他教科の学習内容と連携させて合科的な学習をすすめる。

##### 4 社会に対する児童の興味・関心を高める

→児童が社会科の学習に興味をもてるよう、資料の提示の仕方を工夫する。ICT活用を学年ごとに計画的に行っていく。

#### 社会科の授業改善策

##### 1 社会的事象への主体的に学習に取り組む態度を高めるために

→児童が関心・意欲をもてるよう導入を工夫する。また、高学年ではゲストティーチャーや外部の教育機関、企業の協力を得て、授業に多様な活動を取り入れる。

##### 2 社会的な思考・判断・表現を高めるために

→〈中学年〉身近な地域の学習が中心となるため、見学に行ったことや実生活と学習したことを結び付けるような学習の計画を立てるようにする。

→〈高学年〉複数の資料から読み取ったことを比べる、関連付ける、まとめるという思考の流れを指導する。資料が示していることから思考する場面を設定していく。またICTを活用した学習として、タブレットでの調べ学習や映像資料を参考にした授業を展開していく。

##### 3 知識・理解の技能を高めるために

→①八方位、都道府県、日本周辺国の名称と位置について、どの学年でも地球儀や地図を活用して知識の定着を図っていく。

②高学年では、最低限習得させたい用語について語句テストを実施するなどして定着を図る。また学習した歴史上の人物を掲示したり、歴史かるたなどを活用したりして学ぶ機会を増やしていく。

## 【令和3年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 算数科における令和2年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・第6学年では、積極的に数直線を用いて立式させるなどの経験を行ったことなどが効果を上げ、数と計算、図形、変化と関係、データの活用の全領域で目標値を上回った。
- ・第5学年では、図形の領域において目標値を大きく下回った。具体物を操作しながら体感的に理解させる必要がある。
- ・第4学年では、問題文をノートに書かせ、分かっていること、聞かれていることなどを確認してから立式させるなどの経験をおこなったことなどが効果を上げ、数と計算、図形、測定、データの活用の全領域において目標値を上回った。

### 算数科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年、第6学年は目標値を上回っている。第5学年では、目標値を下回った。</li> <li>・今後も、学習内容に関連させて、既習事項を繰り返し確認していく必要がある。</li> <li>・補習学習などで前学年の学習内容に取り組むことも行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年、第6学年は目標値を上回っている。第5学年は目標値を下回った。</li> <li>・既習事項を活かして問題解決をし、思考力を高める授業を継続して行う。また、問題を把握する場面を重視し、低学年から自分の考えを図や式などで表現することを継続的に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年、第6学年は目標値を上回っている。第5学年は目標値を下回った。</li> <li>・引き続き、分かる楽しさや解くことが楽しいと思える授業展開を工夫し、達成感を感じられる授業を心がける。</li> </ul>

### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 学習内容を理解し、確かな学力の定着を図る  
→それぞれの領域において、児童の実態に応じて確実に知識の定着ができるようにする。
- 2 算数に対する意欲を育み、数学的に考える力を高める  
→既習事項を活用して、自力で問題解決ができる手立てや工夫を授業に取り入れて実践する。

### 算数科の具体的な授業改善策

- 1 学習内容を理解し、確かな学力の定着を図るために
  - ・数と計算の領域の知識を定着させるために、東京ベーシックドリルの結果から児童の実態に応じて習熟タイムや補習学習、家庭学習における指導の検討を行う。その際、児童の実態をより詳しく知るために、教員同士が連携を図りながら指導をしていく。タブレット端末を毎日持ち帰り、家庭学習にも使うことで、家庭と連携した学習習慣作りを進める。
  - ・図形領域の知識を定着させるために、既習事項の確認を行う。辺、頂点、面などの基本的用語は、該当単元の度に復習を行う。また、図形の定義や性質についても繰り返し確認する。立体図形では、側面や頂点、辺の数、展開図などを具体物操作によって体感的に理解させる。
  - ・測定領域の知識を定着させるために、日常的に時刻や時間の計算を行う。また、量感を身に付けるために、具体物を活用して、長さや重さについての概測に取り組ませる。単位の学習では、量感を身に付け、日常生活の中から量の単位のしくみが分かるようにする。
  - ・データの活用領域を理解するために、ICTを活用しながらグラフの書き方を指導する。また、データの特徴や傾向に着目して、表現したり考察したりする活動も行う。
- 2 算数に対する意欲を育み、数学的に考える力を高めるために
  - ・問題解決の際に、具体物、図、数、式、表、グラフ等を用いて表現し、これらの有用性について児童が理解できるように授業展開を行っていく。
  - ・発達段階に応じて、ドット図やテープ図、線分図、数直線などを自ら書けるよう指導を行い、これらを活用して問題を解決できるように授業展開を進めていく。
  - ・問題文を読み取り、演算決定ができるようにするとともに、立式の根拠を自分の言葉で説明できるようにする。
  - ・自力解決場面で自分の考えを表現できるよう、実態に応じた手立てを考えるとともに、検討場面や振り返り場面で友達の考えを学び合う場面を設ける。

【令和3年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

理科における前年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・3～6年において授業改善の取り組みを行ってきた。教科合計得点において、4・6年生は、目標値を上回り、5年生は、目標値を下回る結果となった。結果をもとに今後も授業改善に取り組み、自然事象に親しむ素地を作ることを大切にしつつ、子どもたちが意欲的に学習できる環境づくり・知識技能の定着が今後の課題である。
- ・教員自身が自然事象に親しみ、理科（科学）に対する理解を深めるための研修を行っていく必要がある。

理科における調査結果の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別 結果分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6学年は目標値を上回る結果であった。第4・5学年は下回った。継続して学習知識の定着のために、適宜タブレットなどを活用して振り返る時間を設けるようにしたり、観察や実験の方法を身に付けさせることを単元の中に位置づけて授業計画を立てたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4・6学年は目標値を上回った。第5学年は下回った。観察や実験を行った際は、その結果をまとめ、お互いに考えを伝えることを重点とする。また、観察・実験前後での考えを広げたり深めたり、検討して統合したりする活動を大切にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年目標値を上回る結果となった。現在の取り組みを継続するとともに、児童の興味・関心を引き出す授業の流れや導入の方法などを工夫する。また、振り返りの場面を設定し、自己調整する機会などを作り、より主体的に学習に取り組む児童を育成する。</li> </ul>

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1 自然事象への関心・意欲を高める**  
→導入や授業の流れを工夫する。実際の生活や各教科等と、理科で学習した内容が結び付けられるようにする。
- 2 科学的な思考力・表現力を高める**  
→実験や観察は、予想やめあてをもって行うようにする。その様子や結果から分かったことから何が言えるか、文章でまとめたり、発表したりすることで、互いの考えを共有できるようにする。
- 3 観察・実験の技能の向上**  
→継続的な観察ができるように時間の確保等を計画的に行う。必要な実験は必ず行う。
- 4 知識・理解の定着**  
→観察や実験の結果を振り返る時間を確保し、基礎的な知識の定着を図る。

理科の授業改善策

◆子ども自らが自然の事物・現象に働きかけ、その対象についての知識を得て、これまでの知識と関係づけることで、その対象についての概念をイメージしたり、再構成したりすることを大切にする。

- 1 自然事象への関心・意欲を高めるために**  
→子どもたちにとって、身近な事柄を教材の中に取り入れたり、自然への意図的な働きかけができる環境づくりを取り入れたりする。
- 2 科学的な思考力・表現力を高めるために**  
→課題を追究する時間を授業中に必ず設ける。  
単元の終了時には、分かったことや一般化したことを文章でまとめたり、発表したりする時間を設定する。  
→教員自身が自然事象に興味をもち、理科（科学）に対する理解を深めるための研修を行う。
- 3 観察・実験の技術の向上を達成するために**  
→視聴覚資料に頼り切らず、必要な実験を必ず行う。そのために、実験が行いやすいよう、理科室及び理科準備室の整備を行う。実験を行う際には、実験の用具名や用途を理解させ、自在に扱えるようにする。  
自然観察などはできるだけ実際に行う。（実物をできるだけ見せるようにする。）季節・天候的な問題などでどうしてもできない場合は、視聴覚資料を見せるなどの工夫をする。
- 4 知識・理解の定着を図るために**  
→知識がきちんと定着するように、ノートやワークシート、タブレットを活用する。書き方やまとめ方を指導し、学習したことが単元終了時に確認できるようにする。  
自然の事物・現象の性質や規則性についての知識や用語等については、その定着を図るためにミニプリントやタブレットのドリル学習などを活用して、既習事項を振り返らせるようにする。

## 【令和3年度矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 生活科における令和2年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・昨年度からの新型コロナウイルス感染症防止対策により、グループ活動や地域に出での活動、身近な人々と交流する学習がほとんど行えない状況である。そこで感染症防止対策をとりながらも、相手意識をもって行動することのよさに気付き、それを日常の学校生活の中に役立てることができるように創意・工夫した。
- ・体験や活動を通して自分なりの気付きをすることはできているが、やはり感染症防止対策の観点から表現の場が限定的になってしまった。他教科とも連携させ、思考と表現の一体化を目指しながら指導を行った。
- ・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていくことが課題として取り組んだが、本年度も学校生活になかなか慣れない様子の児童が見られた。児童の実態を分析しながら、引き続き取り組んでいる。

#### 生活科における観点別の分析

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ渦において、校外の人とのかかわりには制限があるが、身近な人々の思いや願いを想像し、自分にできることを考えることができている。</li><li>・諸活動を通して、学校の自然や人とかかわり、その場所の良いところに気付くことができている。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動を通して考えたことや感じたことを観察カードにまとめたり、タブレットを活用して表現したりすることができた。</li><li>・活動や体験について考える際、活動そのものの楽しんでいる様子は見られるが、それを表現する方法が十分に備わっているとは言えない。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・動植物の生長のような自然現に関心をもち、意欲と愛着をもって活動しようとしている。</li><li>・相手に喜んでもらえるよう計画を立てたり、友達と一緒に楽しめる遊びを考えたりしようとしている。</li></ul>

#### 授業改善のポイント

- 1 具体的な活動や体験を通して身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもたせる。  
→地域の人々と交流する活動や地域に出かける活動を2年間にわたり継続的に取り入れる。ただし、感染症予防の観点から、他者と関わる活動は実施するかどうかや体調管理などに十分配慮する。人と触れ合うことや地域社会のよさ、自然の不思議さや面白さなどを実感できるような体験的活動を取り入れ、日常的に人や社会、自然に目を向けられるようにする。
- 2 表現活動を充実させ、その言語化を図る。  
→活動や体験をその場限りで終わらせるのではなく、小学校低学年の発達特性を踏まえ、様々な表現方法を十分に活用した指導・支援を行う。さらにそれを適切な言語表現につなげるために、他教科と連携した指導を充実させる。またタブレットを活用した表現方法を取り入れる。
- 3 スタートカリキュラムに沿った小学校生活への適応を図る  
→スタートカリキュラムを策定し、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。

#### 授業改善策

- 知識・技能  
身近な環境に主体的に関わる中で、生活に必要な習慣や技能を身に付けようとする態度につなげる。
- 思考・判断・表現  
・活動前後の話し合い活動を十分にさせることにより、体験活動と表現活動の一体化を図る。  
・人と交流する機会を設け、相手に応じた活動や表現を工夫させる。
- 主体的に取り組む態度  
・カード等の表現、発表、話し合いの中からのよい気付きを価値付け、各自の学びをたしかなものにすることにより、次の活動に生かして取り組もうとする態度につなげる。
- 学校生活への適応を計画的に図るために  
・スタートカリキュラムに沿って、幼児教育と小学校教育と具体的な連携を図り、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせていく。

【令和3年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

音楽科における令和2年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・ 実態に応じた系統的な指導により、少しずつ表現に自信ができてきた。クラブ活動を効果的に取り入れていく。
- ・ 表現と鑑賞の学習を関連付けることにより、音楽を形づくっている要素や仕組みを理解し、表現に生かせるようになってきている。
- ・ 歌うことを好む児童が多い。自然で響きの豊かな歌声でハーモニーをつくることを目指している。

音楽科における観点別の分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 器楽の学習は特に音楽朝会の発表やグループ合奏に意欲的に取り組む。</li> <li>・ 歌唱は元気に楽しくよく歌うが、発表の場面で消極的になる場合がある。</li> <li>・ 楽曲のよさや面白さを感じ取って聴いている。</li> <li>・ 自分なりの工夫を考えながら、友だちと協力し合って進んで音楽づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素やしぐみを根拠にして表現しようとする児童が増えてきた。さらに、友達の見解を聴いて考えを広げたり深めたりできるようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音楽を形づくっている要素や仕組み視点を理解して、聴くことができる児童が増えてきた。</li> <li>・ 音楽を聴いて感じたことをより多くの言葉で表したり、音楽で表現して全体や相手に伝えようとする児童が増えてきた。</li> </ul>

授業改善のポイント

- 1 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。  
→ 児童の実態に応じて毎時間ねらいを明確にし、確実に習得できるようにしていく。
- 2 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。  
→ 曲の特徴に気付いたり、ふさわしい音楽表現を試したりしながら、思いや意図をもつ。音楽を味わって聴けるようにする。
- 3 主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。  
→ 自ら音楽に関わっていくことができるようにする。

音楽科の授業改善策

- 1 児童の実態に合わせた系統的な指導により、基礎的な知識・技能を定着させる。
  - 低 曲想と音楽の構造などのかかわりに気付き、楽しく表現できるように技能を身につけるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、鍵盤ハーモニカの取り扱いを身につけ、大切にすることを育む。
  - 中 曲想と音楽の構造などのかかわりに気付き、表したい音楽表現ができるように技能を身につけるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身につけ、大切にすることを育む。
  - 高 曲想と音楽の構造などのかかわりを理解し、表したい音楽表現ができるように技能を身につけるようにする。姿勢、鑑賞時のマナー、リコーダーなどの楽器の取り扱いを身につけ、大切にすることを育む。
- 2 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
  - 低 思いをもったり楽しんだりできるようにする。
  - 中 音楽表現を考えて思いや意図をもったり、曲や演奏の良さを見出しながら聴くことができるようにする。友達との関わりがもてるような活動を工夫する。
  - 高 音楽表現を考えて思いや意図をもったり、曲や演奏の良さを見出しながら聴くことができるようにする。友達との関わりがもてるような活動や全員で作りに上げていくような活動を工夫する。
- 3 主体的・創造的に表現や鑑賞の活動に取り組む楽しさを実感することができるようにする。
  - 低 個人の活動や友達との活動を通して、楽しく音楽に関わっていくことができるようにする。
  - 中 協働し、進んで音楽に関わっていくことができるようにする。
  - 高 協働し、主体的に音楽に関わっていくことができるようにする。



【令和3年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

家庭科における令和2年度の授業改善推進プランの検証

<p><b>取り組みにおける成果と課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の意義や在り方を理解することはできた。また、裁縫などの具体的活動はとても意欲的に行い身に付いたと考えられる。</li> <li>・家族や家庭の生活に目を向けるようになった。それを自分の生活の中で日常的に生かせるようにすることが今後の課題である。</li> <li>・感染症対策のため、調理実習がほとんどできなかったため、調理の基礎を学ぶ機会がなかった。</li> </ul>
---

家庭科における観点別分析

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な技能はほぼ身に付いていると考えられる。集中して取り組むこともできる。しかし、裁縫では技能取得までに時間を要する児童がいる。</li> <li>・衣食住や家族の生活に関する基礎的なことについては大体の児童が理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活において、課題を見つけようとする事ができる。裁縫などで、自分で考えて工夫できる児童がいる一方、教わった通りには取り組めるが工夫するまでには至らない児童が見られる。</li> <li>・日常生活の中から消費生活・環境について問題を見だし、課題をもって考え、解決する力には課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住の中でも、特に衣食について関心が高い。裁縫などは意欲的に取り組む。一方、学んだことを自分の生活の中で生かそうとする児童とそうでない児童の二極化が見られる。</li> </ul>

授業改善のポイント

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動できる力の向上を図る。</li> <li>・家族の一員として課題をもち、解決しようとする力の育成が必要と考える。</li> <li>・学習したことを自分の生活の中でも生かしていける力を養う。</li> <li>・自分で考え、創意工夫ができる題材の与え方や手立てを工夫する。</li> </ul>
--

家庭科の授業改善策

<p><b>○学習に興味・関心をもち、自分で考えて行動できる力の向上を図るために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味・関心をもち、思考を深められる教材や教具の活用に取り組む。</li> <li>・児童一人一人のよさや、可能性を生かすことができる教材や題材の構成に取り組む。</li> <li>・自分で考え、創意工夫できる教材や題材、手立てを設定する。</li> <li>・自分の生活における課題を解決するために、生活をよりよくする方法を考えて話し合ったり、体験したことをまとめて発表したりする学習活動を充実させる。</li> </ul> <p><b>○家族の一員として課題をもち、解決しようとする力の育成のために</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に調べたり観察したりする学習を多く指導計画作りに取り組む。</li> <li>・課題解決の過程で児童が自分で学習を深めていける授業の構成に取り組む。</li> <li>・学習したことを自分の生活の中で実践できるような授業の構成や課題提示に取り組む。</li> </ul>
--

## 【令和3年度 矢口東小学校 授業改善推進プラン】

### 体育科における令和2年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・体力調査の結果（令和元年度）では、上体起こし、20mシャトルラン、ソフトボール投げに課題のある学年が多かった。中休みや昼休みは、積極的に外遊びをして体を動かす児童が多い。しかし、学年によっても差があり、全体的な体力・運動能力の向上にはつながっていない。
- ・健康に関しては日頃からの指導により、知識を自分の生活と関連させて考える力は育ってきていて、手洗いうがい等を徹底して行うようになっている。

#### 体育科における調査結果の分析

	運動領域	保健領域
低学年	長座体前屈、反復横とび、立ち幅とびは好記録。上体起こし、20mシャトルラン、ソフトボール投げに課題がある。	
中学年	長座体前屈、反復横とび、立ち幅とびは好記録。上体起こし、50m走、ソフトボール投げに課題がある。	生活・健康・体の発達についての理解、知識はあるので、実践できるように声をかけていく必要がある。
高学年	立ち幅とびは好記録。上体起こし、20mシャトルラン、ソフトボール投げに課題がある。	心の健康・病気・けがの原因・生活習慣病についての知識は身に付いている。

#### 調査結果に基づいた授業改善のポイント

1. 児童が進んで運動に取り組むために、めあてを示す。
  - ・学習の最初にめあてを提示し、児童に見通しをもたせて取り組ませる。掲示物やワークシートも活用し、いつでも確認できるようにしたり、意欲や技能の高まりを実感できるようにしたりする。
  - ・場の設定を工夫し、児童が意欲的に取り組めるような環境作りを行う。めあての達成に迫るとともに、運動量が確保できるように、めあてに応じた活動の構成や時間配分も意識する。
2. 準備運動、予備運動の充実を図る。
  - ・準備運動の中に、体づくりの要素を取り入れたり、鬼遊びを取り入れたりして体力の向上を図れるようにする。
3. 個々の技能を高めるだけでなく、チームワークを大切にする心を育てる。
  - ・児童同士が励まし合い、教え合いながら運動に取り組めるようにグループ活動を取り入れる。
4. 健康・安全についての知識を実生活に生かせるようにする。
  - ・早寝早起き朝ごはん週間を実施し、正しい生活習慣や運動習慣を身に付けさせる。
  - ・毎日の積み重ねで健康が維持できていることを実感できるように、視聴覚教材や掲示資料、ワークシートを授業に取り入れ、自己の行動や生活について振り返る機会をつくる。

#### 体育科の授業改善策

**低学年:** 体づくり運動や走の運動遊び・機械器具を使った運動遊びを充実させる。授業の最初に鬼遊びを取り入れる等、運動量を確保し、体力の向上を目指す。簡単なきまりのある活動を取り入れ、楽しみながら基本的な動きをしっかりと身に付けられるようにする。

**中学年:** 友達と協力しながら運動に取り組むことで、特性に応じた技能を身に付けさせる。特に体づくり運動の充実を図ることで体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに基本的な動きができるようにする。また、体力向上を目指し、授業の最初に鬼遊び等のゲームを取り入れる。健康・安全に関しては、知識・理解を定着させ、実践していける力を養う。

**高学年:** 友達と協力しながら運動に取り組むことで、特性に応じた技能を身に付ける。体幹を鍛えるために、特に体力を高める運動に重点を置き、計画的に指導する。また、活動を工夫して運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにグループ活動を充実させる。健康や安全については、知識・理解を定着させ、実践できるように、日常的な声かけを行い実生活と結び付けて考えさせる。

#### ○いろいろな運動に意欲的に取り組むために

- ・視聴覚教材や提示資料を使うなど、授業を工夫する。また、ワークシートを活用し、学習の見通しをもたせるだけでなく、意欲を高められるようにする。
- ・休み時間を活用してできる取り組みを授業で行ったり、全校で運動に取り組んだりする。

#### ○個々の技能を高め、チームワークを大切にする心を育てるために

- ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、友達同士で積極的にアドバイスし合ったり、励まし合ったりできるようにする。その際、タブレットを使って、友達の動きを撮りあったり、見合ったりして、互いにアドバイスしていく。

#### ○健康への意欲を高める指導の充実を図るために

- ・早寝早起き朝ごはん月間を活用して、児童に規則正しい生活習慣が身に付くようにする。
- ・養護教諭や栄養士と連携し、衛生教育、食育の推進を図る。また、外部講師を活用し、保健指導や給食指導を継続的に行う。
- ・外部講師を活用し、心の発達や病気、がん教育、けがの予防、防止、薬物の危険性について意識の向上を図る。

## 【令和3年度 矢口東小学校授業改善推進プラン】

### 図画工作科における令和2年度の授業改善推進プランの検証

#### 取り組みにおける成果と課題

- ・発達段階や実態に応じた題材や指導内容を工夫したことで、子どもたちは意欲的に造形活動に取り組むことができた。
- ・導入を工夫したり個々に応じた言葉がけをしたりすることで、子どもたち個々の興味や関心、活動に対する意欲が高まった。
- ・友達作品を見るなど、製作後に授業の展開を工夫することで作品を楽しく見ることができた。
- ・材料・用具、作品などを丁寧に扱うことを継続的に指導し、互いの活動を尊重し安全に学習できる環境を保持できるようにする。

#### 図画工作科における観点別の分析

観点別の分析	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう人間性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な用具や工具、描画材等の使い方を工夫し、自分の思いにそって表現方法を考えている。</li> <li>・基礎的な用具の扱いや、技法について、まだ習得が不十分な児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしく発想したり構想をたてたりして、主体的に表現しようとしている。</li> <li>・自分の思いや考えを表すことに苦手意識をもち、なかなか発想できない児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や題材に対する興味関心を持ち、進んで関わり表現しようとしている。</li> <li>・作品や身のまわりのものに関心をもつことができている児童もいるが、全体に説明した内容の理解が難しい児童もいる。</li> </ul>

#### 授業改善のポイント

- 1 身のまわりの材料に関心をもち、創造的な造形活動に対する意欲をもつことができるようにする。  
→扱う材料の色や形・感触などのよさを知ったり、表現の可能性を感じたりすることができるよう題材や活動内容を工夫する。
- 2 想像力を働かせて構想をたてたり、自分らしく発想したりして、つくりだすことの楽しさを味わえるようにする。  
→活動のイメージや見通しをもちやすいよう、試しやすくやり直ししやすい題材や友達作品を見るなど児童の実態に合う題材を取り入れる。
- 3 表現の意図に応じて、用具や材料を自分なりに工夫して使うことができるようにする。  
→個別に製作をみてまわり、用具や材料の基本的な扱い方や技術的な支援をしていく。
- 4 身のまわりの造形物や作品のよさを感じ取り、自分らしく見ることの楽しさを味わえるようにする。  
→互いの作品を見合うなど、児童が楽しみながら作品を見ることができるようになる。

#### 図画工作科の授業改善策

##### ○ 知識及び技能

- ・形や色などの造形的な視点に気づき、身近で扱いやすい材料や用具を用いて、創造する技能を身に付けている。  
(低学年)
- ・前学年までの材料や用具の経験を活かし、手や体全体を十分に働かせて、表したいことに合わせて工夫して表す。  
(中学年)
- ・前学年までの材料や用具などについて経験や技能を生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表現を工夫する。(高学年)

##### ○ 思考力・判断力・表現力

- ・児童の実態に合わせて、身近な材料や用具を生かせる題材を取り入れて、楽しく発想や構想できるようにする。  
(低学年)
- ・造形的なよさや面白さを、表したいことを考え、自分の見方・感じ方をもとに想像したり発想したりできるような題材に取り組む。(中・高学年)

##### ○ 学びに向かう人間性

- ・作り出す喜びを味わい、主体的に表現・鑑賞の活動に取り組もうとしている。(低・中・高学年)